

平成 30 年 3 月 31 日

つくし保育園

平成 29 年度 苦情解決委員との懇談のまとめ

○

第 1 回：平成 29 年 9 月 28 日（木）19：00～21：00

第 2 階：平成 30 年 3 月 12 日（月）19：00～20：30

○内容

(1) 上半期 下半期の要望苦情について

平成 29 年度は、1 件の苦情が寄せられた。

① 職員の子どもへの関りについて

①に関しては、保護者から見れば、子どもの服が裏返しだったり、下着を着ない状態で見れば、「先生は我が子を見てくれているのかな・・・」と心配になるのは当然だと思う。担任は、何度も着替え直そうとしても本児が嫌がったり、「これでいいの」と着れたことに誇りを持っているのでそっと見守っていた。しかし、保護者にはその担任の思いが伝わっていなかったことが大きな原因であることを会議の中で確認した。子どもの姿を長々と伝えるのではなく、本児の思いや成長を伝え、一緒に喜びあえることを保護者とできるようにしていくことを話し合った。その後保護者からは、「先生の思いを聞いて良かった。これからは担任にいろいろ話をしていきたい。という意見もいただいた。

(2) 職員の自己評価について

・職員は上半期、下半期と「子どもの思いに寄り添う保育」「切り返し、子どもが自己決定できる保育」等自分の保育を振り返り、反省し次につなげていくことを大切にしていることを改めて感じた。また、保育についても職員で連携していく大切さ、「こうしていこう！」という思いを感じられた。事務の軽減では、理事会からも提案が出る中で、みんなで考えて改革してきた。

・下半期には急な退職をした職員がいて、残った職員は心を痛め、つらい日が続いたが、「子どものために・・・」とみんなで踏ん張ってきた。職員で服務について改めて「保育士とはどうあるべきか・・・」を考えた。

(3) 保護者アンケートについて

今年度の保護者アンケートについて報告した。50 世帯中 50 世帯の 100%の回答率であった。第三者委員からは今の保護者は、子どもにとって幸せでも親の就労や考え方を「子どもが幸せだから、楽しんでいるから自分も頑張ろう」と思えない状況であることが話された。いつかは「つくしはよかったなー」と思うから今の保育を頑張ってもらいたいと話された。